

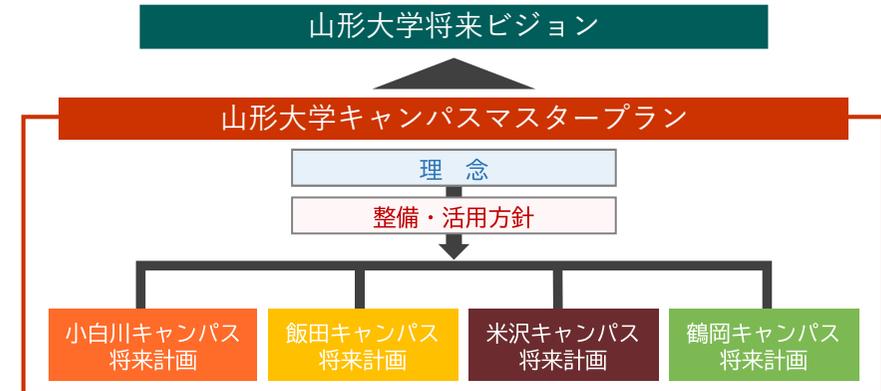
山形大学キャンパスマスタープランの役割

【山形大学将来ビジョン キーワード】



- 山形大学将来ビジョン“つなぐちから。山形大学（共育・共創・共生による持続可能な幸福社会の実現）”を踏まえたキャンパスの将来像の実現に向けて、将来あるべき姿を具現化する。
- キャンパスの将来像の実現について、学内外の関係者が共通認識を持てる計画とする。
- 中長期的な施設整備計画を立案し実施する。
- なお、山形大学キャンパスマスタープランの再構築に伴い、キャンパス整備の骨幹となる【理念と整備・活用方針】を策定。

キャンパスマスタープランの構成イメージ



キャンパスマスタープランにおける理念：将来ビジョンを具現化するために、キャンパスがどうあるべきかを示すものであり、キャンパス計画の骨幹となるもの。

<p>01 歴史と伝統の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史や伝統を継承する「変えてはいけない部分」の守りと戦略的に「変えていく部分」の攻めのバランス 地域にとって魅力のある空間となるよう四季を感じて快適に過ごせるキャンパス環境 	<p>04 ダイバーシティの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な人々に対応したキャンパス環境 異分化の研究者が集うコミュニケーションスペース
<p>02 教育・研究機能の発展</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・先進的研究を推進するため研究施設・設備の高度化・共同利用 多様な教育研究ニーズや高度で専門的な教育ニーズへの対応 	<p>05 地球環境への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形の豊かな自然環境を背景とする魅力ある開かれたキャンパス環境 地域と連携した脱炭素型まちづくり、環境負荷低減に対応した持続可能な社会に向けたキャンパス環境
<p>03 地域社会との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学と地域が一体となるような、地域に開かれたキャンパス環境 多様な利用者に配慮したスペースを確保し、施設利用の流動化と施設の有効活用 	<p>06 安全・安心の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な利用者に配慮した安全で安心できるキャンパス環境 耐震対策や防災機能の強化、老朽化した施設や基幹整備の長寿命化・改善整備

キャンパスマスタープランにおける整備・活用方針：キャンパスマスタープランに掲げる理念を具体化し、それらを達成するための整備・活用方針として、継続的に守るべきこと。

<p>(1) 歴史・伝統を活かした特徴あるキャンパス ①山形大学の歴史を示すシンボリックな空間づくり ②ゆとりのあるおらかな独自のランドスケープ ③歴史と伝統を継承し育んでいく</p>	<p>【理念】 1 小白川キャンパス 2 飯田キャンパス</p>
<p>(2) 景観とバランスの取れた空間を創出するキャンパス ①将来の発展を見据えたゾーニング計画 ②キャンパス全体のバランスを考慮した建物配置</p>	<p>【理念】 </p>
<p>(3) 教育研究の機能強化と地域コミュニティの拠点となるキャンパス ①地域社会との共創スペースの整備 ②オープンスペースの整備 ③産業界との共同研究を活性化させるスペースの整備 ④外部空間と調和した一体的な整備</p>	<p>【理念】 </p>
<p>(4) 環境負荷低減に配慮したキャンパス ①省エネ創エネ性能向上を図り建物のZEB化を促進 ②自然豊かな山形の資源を活用したキャンパス整備 カarbonニュートラル実現に向けた取組</p>	<p>【理念】 3 米沢キャンパス 4 鶴岡キャンパス</p>
<p>(5) 安全・安心・防災を最優先したキャンパス ①安全で快適な動線計画 ②キャンパスのユニバーサルデザイン化を促進 ③多様な人々も受け入れ可能な避難場所・BCP対策</p>	<p>【理念】 </p>
<p>(6) 戦略的なファシリティ・インフラ計画のマネジメント ①戦略的な施設のトリアージ ②長寿命によるライフサイクルコストの転換 ③効果的・効率的な維持管理に配慮した整備</p>	<p>【理念】 </p>